



令和2年度(2020年度) 学校評価 (各評価項目)

令和3年(2021年) 学校評価委員会

領域	対象	評価項目 <small>※丸数字は重点目標との関連</small>	評価の観点	成果と課題	評価			改善策
					A	B	C	
学習指導		② 授業の充実・改善	「学び直し」などで基礎学力を定着させ、キャリア教育を意識した授業改革を、学校をあげて推進できたか。	各教科の取り組みを経て、年に2回「基礎力診断テスト」を実施した。実施後は、2学期末にベネッセ担当者との進路の係で検討会を実施し、それぞれの学年の指導の参考とした。基礎力診断テストの結果から学び直しの効果も確認できた。さらに面談等における対話も兼ね基礎学力の向上を継続していきたい。			○	「基礎力診断テスト」の結果を細かく分析し、具体的な改善策を考え、授業に役立てていきたい。キャリア教育は現在特定の教科に集中しがちであるので、各学年や教科が連携してキャリア教育の推進を進めていけるように努力したい。
			「授業の五か条」を定着させることができたか。	年度当初に「授業の五か条」と「携帯電話の五か条」を各教室に掲示し、その重要性を再確認させた。生徒会の「松高スマホルール3ヶ条」が昨年度から施行されたことで、生徒間で授業の受け方について考えさせる好機となった。今後も、生徒会とも連携して生徒の意識を高め、学校全体で授業の質の向上について考えていきたい。			○	年度当初のルール確認は今後も継続したい。生徒会活動により年度当初は授業の2分前着席や「松高スマホルール3ヶ条」について生徒の意識が高く、定期テスト前日の「断スマ」期間もスムーズであった。2学期後半に少々意欲的な傾向が見られたところもあったが、来年度以降も学校全体で授業に関する指導の徹底を図るとともに、生徒の意識の向上に役立てていきたい。
			授業研修の機会をもてたか。	今年度は公開授業等の中止や制限があり残念であったが、初任研等を中心に、相互に授業を参観することにより、授業改善の機会として役立てることができた。			○	授業公開週間のみでなく、日頃から各教科内や教科の枠を超えて、授業を参観し合い、授業改善につながるよう研修を深めたい。また、整備されつつあるICT機器を有効活用し授業を充実させたい。
教育課程		③ 教育課程及び個に応じたエリア・選択科目の設定	エリア・講座選択のガイダンス指導は適切にできたか。	1学年のエリア選択説明会および体験授業を実施し、各自の進路希望実現に向けて、適切なエリア選択ができるよう指導した。担任を中心として個々の生徒に対する適切な指導により、エリア人数の調整ができた。			○	エリアの選択は、進路を左右する重要な決断である。進路指導と連携して全体の進路意識の高揚を図るとともに、個別指導を通して早めに進路の方向を決定し、保護者の同意も確認した上で、慎重にかつ的確に指導していく必要がある。
			エリア制の目標に即してカリキュラムの充実を図ることができたか。	「総合的な探究の時間」を通して自らの進路をどう切り拓くかを考えられた。来年度も全学年が授業を同時に行うので学校全体での充実を図りたい。昨年度より2年課題探究エリア必修「キャリア探究」が始まり、地元企業について学習を深めることができた。			○	「総合的な探究の時間」を有意義な時間とするために多方面から情報を収集してさらに充実した内容となるよう研究したい。また、令和4年度からの新教育課程を編成した。今後も実施に向けてさらに研究と改良を続けたい。
進路指導		③ 関係諸団体と緊密な連携を図ること 進路指導上必要と思われる情報の収集、管理、提供を的確に行うこと	関係諸団体との連携を図りつつ、進路指導上必要な情報収集、情報提供を行うことができたか。また適切な情報管理がなされたか。	監督官庁・商工会等の関係諸団体との連携は十分になされたといえる。本年はコロナ禍によって、産業視察・地域企業説明会等の生徒・職員の参加型行事が中止となり、生徒たちの進路学習の機会が制限され残念であったが、関係諸団体と緊密な連携を取りつつ生徒・保護者に有益な情報提供を心がけた。また、進路指導に関する情報管理については、法令・通達等に基づき細心の注意を払い適切に行ってきた。			○	他校の進路指導担当との情報交換・連携も十分に行っていく必要がある。新型コロナ感染対策を常に考慮しつつ、関係諸機関・諸団体にこれまで以上の協力を仰いでいく。特に参加型の産業教育行事は、生徒たちが職種選択・事業所選択を行うにあたって非常に有益であるので、可能な限り協力をお願いし、実施していきたいと考える。
			大学・短期大学・専門学校の教育内容や公開授業、選抜方法等に関する情報を適切に提供することができたか。	コロナ禍によって、大学・短大・専門学校のオープンキャンパスの多くが中止となったが、各校のオンライン等を利用した学校紹介・公開授業の企画・実施予定を希望者に呈示し、オンラインガイダンスの有効活用を促した。大学・短大・専門学校の広報担当者に入り込め度、新型コロナ感染防止対応等の必要情報を収集し、希望生徒・保護者に適時的確に情報を提供することに努めた。			○	今後も新型コロナ感染対策を行いつつ、様々な制約下で進路情報の提供を適切に行っていく必要はない。進路指導関係の外郭団体にこれまで以上の協力を仰ぎ、参加スタイルに工夫を凝らしていただき、生徒対象の学校説明会開催を保障していきたい。大学・短大・専門学校との連携を強化し、出張説明会・出張授業等を実施することで生徒への的確な情報提供を行う。
			各事業所の求人情報を迅速に収集し、受験希望企業への有益な情報を提供することができたか。	管轄ハローワークおよび各事業所の採用担当者よりいただいた新卒求人情報を基に、事業所選定にあたっての有益な材料を提供することができた。特に直接推薦依頼をいただいた地元(南信地区)事業所の求人情報を重点的に呈示し、生徒たちの地元有力企業の受験を促すことができた。			○	来年度の採用試験開始時期が未知数であるので、通常(9月16日開始)の受験日程の指導スケジュールと、本年度のような10月開始のスケジュールのそれぞれに対応した指導内容を早期に構想しておく必要がある。コロナ禍による新卒求人数の減少というリスクも想定をしつつ、指導内容の組み替えや再検討を行う必要も考えている。感染対策等による制約下でも、臨機応変の展開を行うことができるような体制づくりを心がけていきたい。そのためにも監督官庁、関係諸団体、各事業所の担当者との連携を一層強めていくことが大切であると考える。
			生徒の進路希望状況を学年スタッフと共有し、進路実現のための協働的なサポート体制を構築することができたか。	各学年の進路指導展開のためのステージ設定・指導内容の作成及び実際の指導に関し、新型コロナ感染対策を十分図りながら、各学年の進路指導担当と進路指導室担当者がコアとなり、堅実な指導体制をつくり上げ良好な成果を上げることができた。コロナ禍により年度途中で指導計画の変更を何回か余儀なくされ、特に3学年の展開については過密スケジュールでの指導を行わざるをえなかった。今後は、担任・担当者への加重な負担を少しでも減らすように工夫を凝らしたい。大学等の指定校推薦依頼件数の減少はほとんどなかったが、今後の減少も想定し、指定校推薦入試に対する受験対策(面接・小論文等)をこれまで以上に強化していく必要があるといえる。また生徒に、受験生としての心構えを日々の学校生活のなかで教え込む必要がある。			○	今後の進路指導は、コロナ禍等過去に経験のない状況に応じた臨機応変かつ迅速果敢な対応を心がけていく必要はない。生徒たちが採用試験・入学試験を突破するのに何が何でも何を求められているのかを状況の変化に合わせて考慮し、各学年会としっかりと連携し指導を展開したい。指定校推薦入試受験を希望する生徒に対しての面接指導及び小論文指導に関し、該当教科と連携しつつさらに充実させていきたい。進路実現のための高校生としての基本マナーを、進路講話等で啓発し、生徒たちの意識を高める取り組みも強化していく。
生徒指導		① 安全な学校生活の保障	いじめや問題行動に対して的確に対応できたか。	担任・生徒支援・生徒指導などの連携による情報収集を行い、問題行動があった場合には学年・生徒指導を中心に、迅速かつ的確に対応できている。			○	迅速な対応と正確な調査を念頭に指導が進められてきた。しかし、まだ生徒自身の意識が低く、SNSの利用にも課題があり、さらなる指導を心がけている。
			基本的な生活習慣の確立	挨拶・通学マナー・上下履きの区別・その時にふさわしい身だしなみの定着ができたか。	多くの生徒が良い挨拶をすることができている。通学マナーについては常々諸方面から指摘がある。身だしなみについては、生徒会と連携してきたが、指導機会・指導方法に課題が残った。			○
			スマートフォンについて、ルールやマナー、使い方を生徒が主体的になってコントロールできるように指導できたか。	生徒自らが作るルール作りを生徒会が主体的になって、スマホのルールを作り実践している。今までと同じような問題点も散見されるが、主体的な分、生徒自身の問題意識も高く、今後の期待される。			○	スマートフォンが生活に欠かせないツールになりつつある中で、社会に出てから困ることのないような使い方を、行事や授業等の機会伝えていく必要がある。新ルールが空文化にならないよう生徒会とも連携していきたい。

領域	対象	評価項目 ※凡数字は重点目標との関連	評価の観点	成果と課題	評価			改善策
					A	B	C	
生徒会	④	生徒会活動やクラブ活動の活性化	生徒会の行事や活動を主体的に企画・運営させるとともに、全会員を意欲的に参加させることができたか。	2年目と「松高スマホルール」だが、生徒役員は主体的にルールと関わろうとする姿勢が見られる。しかし、全会員を意欲的に参加させる段階には至っていない。その他の企画や行事についても同様の傾向が見られる。	○			「スマホルール」の作られた経緯、意味をしっかりと引き継ぎ全校生徒に浸透させていく。委員会活動、文化祭係活動などを通じて、一人一人が責任ある仕事、必要とされている自覚が持てるようにし、意識を高めていく。
			生徒会の活動方針やテーマを全会員に理解させ、それに則した活動を日常的に継続して展開させることができたか。	「創造から実現へ」のテーマのもと、生徒たちが作り上げたモノを根付かせるために活動ができた。断捨離Day、全校ディスカッション、松高祭などを通じて、全校生徒をさらに巻き込んでいくことが課題。		○		来年度はコロナ禍の中でも全校生徒が協調、活動しやすい環境を創り、全校ディスカッションや文化祭等の行事を通じて、役員が積極的に働きかけて全会員を巻き込む。
			クラブ活動に目標を持って自発的に取り組み、意欲的な参加の姿勢を養うことにより、活動を活性化することができたか。	コロナ禍で思うように部活動ができなかった。不規則な活動時間の中でもモチベーションを保ちながら活動できるように集団作りが課題。		○		部活の活動場所や活動時間の工夫。また、イレギュラーな事態に柔軟に対応できるような連絡方法やマニュアルの作成も必要である。
	⑤	生徒会活動、クラブ活動による自発的な態度と実践力および自治能力の育成	生徒会活動など特別活動の指導を通じて、生徒の社会参加を図り、地域に貢献する取り組みを行わせることができたか。	長野市に花を届ける活動や、松川町内の保育園に花を届ける活動ができた。また、東北の大震災以降降ってきた東北支援活動については、生徒会として今後どのように関わっていくべきか生徒達が深く考える時間を設けられた。生徒自身が地域に貢献する取り組みを考えられるようにすることが課題。		○		全校ディスカッションや生徒会活動を通じて、生徒が地域に貢献できることを自ら考える機会を増やしていく。
			生徒会活動の指導およびクラブ活動の指導を通じて、生徒の自発的な態度を養い自治能力を育成することができたか。	自ら計画し実施させ成果を感じ取ることで、自治的、自発的精神を養い指導を試みている。また、自分たちの課題を常に自覚させ活動を行っている。学校は自分たちが創る場所であることをさらに意識させ取り組みたい。		○		生徒役員や職員の考えで動く松川高校でなく、生徒一人一人が松川高校について関心を持ち、考えて動くことができるような生徒会活動を目指していく。
教育相談	①	教育相談の充実（不適応生徒への対応）	対応を必要とする生徒の状況の把握を行う体制が構築できたか。	生徒の状況把握については、週1回の係会や日頃から職員間での情報交換を心がけ、学年会、職員会にて共有することができた。保護者への連携を密にしていきたい。		○		教育相談活動に関し、職員間で共通理解を持てるように情報共有を行う。生徒の状況把握のため、保護者との連携をはかる。
			関係者との連絡を密に取り、適切、迅速な対応ができたか。	教育支援の専門機関へつなぎ、アドバイスを受けることができた。生徒、担任、保護者と課題を共有し、よりよい方向に進むよう、さらなる理解協力を得ていきたい。		○		生徒について正確な情報の把握と共有をするとともに、教育支援の専門機関との連携を密に行う。専門機関について、職員や保護者に周知を図り、相談しやすい環境をつくる。
保健	①	生徒・職員の心身の健康管理と増進、保健衛生の確立	健康診断による生徒・職員の健康状態の把握と、その結果をふまえて早期治療に結びつけることができたか。	疾病異常者だけでなく、必要に応じて2学期末の保護者懇談時を活用して保護者も含めた保健指導をすることができた。今年度の保健統計で、生徒の歯の衛生状態が非常に悪いことが明らかになり(10月実施の歯科検診結果)、どう改善していくかが喫緊の課題である。		○		歯の衛生状態の悪さについては、高校入学前からの生活習慣や治療状態によるものも関係していると推察され、また高校生活での歯科保健については今後、原因を究明し、学校歯科医のご指導も頂ながら取り組んでいきたい。
			思春期特有の健康問題について生徒自身が気づき、対処できるような指導、対応ができたか。	1学年:県看護協会出前授業による性教育講話を実施。2学年は昨年度をふまえてDVDを視聴しワークシートで学びを深めた。3学年:卒業前の時期に養護教諭がクラス毎に性や今後の健康管理について、SOSの出し方教育を実施した。今後も各学年毎の性教育を中心とした指導を継続していきたい。		○		1学年に対しては今年度同様、5月に県看護協会出前授業を活用して性教育の実施を計画。2年生については従来どおり性教育の実施。3年生については、卒業前の時期に保健講話の実施を計画。またスマホ依存の弊害について投げかけ、生徒会係とともにこの問題について生徒自身が考える機会を持ち、自己コントロールできる力がつけられるよう取り組む。
			日常の健康観察や欠席、保健室来室状況から支援の必要な生徒に対し適切な対応ができたか。	新型コロナウイルス対策での健康観察や感染防止対策に取り組めるよう、担任や部活動顧問等との連携を図り取り組んだ。欠席や保健室来室の多い生徒には職員が話を聴きスクールカウンセラーや専門機関への相談、受診を勧めた。		○		新型コロナウイルスの日常健康観察や感染対策の継続。また学年会や係会等での情報共有を密に行い、心のケアについても引き続き対応していくよう努めたい。
図書視聴覚	②	利用しやすい環境づくりと幅広い資料活用	利用しやすい環境づくりができたか。	新型コロナ対策として、本や備品の消毒、換気などを行うとともに、コーナー設置などの館内整備に努めた。		○		選書や広報活動にも力を入れていきたい。
			自主的な探究心に応えられる資料を揃え、授業ほか幅広い利用支援を行えたか。	授業において図書館の資料とタブレット等による検索を同時に行えるように整備を進めることができた。		○		授業等での利用支援がどのような形でできるかを、今後も工夫して進めていきたい。
教育活動	①	視聴覚教育の充実 ② 人権教育との連携	視聴覚機器の充実と有効活用、放送室等の整備ができたか。	さまざまな活動に利用してもらえた。放送室、第2体育館の放送室の適切な使用について放送委員会を中心に生徒に徹底する必要がある。		○		放送室の使用について、生徒に適切な使用を厳守するよう徹底したい。また、冬季では暖房の消し忘れが見られたので、注意して管理したい。校内の放送機器について再度所在を確認し、老朽化した放送機器については修繕や設置を検討する。
			視聴覚教育・人権教育を通して、生徒の情操教育や学力向上に資することができたか。	合同芸術鑑賞会では、新型コロナウイルスの影響により中止となった。		○		新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し、安全な環境の中実施できるように取り組みたい。また、芸術鑑賞観劇のマナーについても事前指導を徹底したい。
	①	情報機器の活用体制	情報機器の有効活用が学校全体でできたか。	今年度、電子黒板が普通教室に設置され、タブレット端末も整備された。校務や授業・生徒会活動での利用数が増加しており、情報機器を活用できている。		○		情報機器を授業や行事で効果的に利用できるように、教員間で情報共有を行いたい。本校としてのBYODの導入方法、時期なども検討が必要である。
			① 個人情報の保護	情報を扱う際のリスクについて理解し、適切な個人情報の取り扱いができたか。	個人情報の適切な取り扱いができるよう情報セキュリティ研修を全職員が行った。職員の意識を高め、適切な個人情報の取り扱いができるようさらに研修を重ねる必要がある。		○	
①	① 危機管理	防災・事故等に備えた危機管理体制の広報と定着ができたか。	今年度の防災訓練はあいにくの雨天そしてコロナ禍ということで、教室を出て避難する訓練ができなかった。そのため放送にて教頭先生及び消防署の方に日頃の防災意識等の話をしていただいた。しかし実際グラウンド等へ避難するのと比べると防災意識が高まったとはいえないと考える。		○		避難訓練時の放送については緊急放送と校内放送を併用していく必要がある。また、予期せぬ災害に備えて、毎年ではなくとも特別な訓練をおこなう必要もあると考える。	

領域	対象	評価項目 ※丸数字は重点目標との関連	評価の観点	成果と課題	評価			改善策
					A	B	C	
環境美化		④ ⑤ 清掃美化の徹底	生徒自ら、自発的に環境美化活動に取り組む姿勢を養い、校内美化の徹底を図ることができたか。	美化委員が中心となって「全校床磨き」や「断捨離DAY」といった美化活動を行う中で、生徒の美化意識を向上することができた。一方で、普段の清掃活動を怠ける生徒が一部でみられ、個人ロッカーの上を物置とする傾向は依然としてある。			○	清掃活動の充実のために清掃用具の管理・補充を随時確認するとともに、引き続き床磨き等の美化活動を計画することで、全校生徒の美化意識を高めていく。
			地域における学校の果たす役割として、駅周辺と通学路の環境美化に努力できたか。また、ごみの減量化、ごみの分別等ができたか。	生徒総会の場をかりて分別の徹底とポイ捨ての防止を呼びかけた。このような呼びかけと全職員の協力もあり、ゴミ分別の徹底を生徒個人で行ってもらったが、時間が経つにつれてその意識は薄れているように感じる。今後、継続してゴミ分別が生徒自ら行えるような指導・施策を要する。			○	ゴミの分別には呼びかけが有効であったことから、定期的な呼びかけを実施する。また、生徒会美化委員が中心となり定期的な清掃活動を行うことで学校周辺の環境美化と生徒間の美化意識の定着を図る。
人権平和教育		① ④ 個人を尊重し、いじめのない学校づくりを進める	いじめを容認しない、早期発見ができる人権感覚の育成を生徒の日常生活の実態に即してクラス・学年・学校全体を通じて重層的に行うことができたか。	コロナ禍の中、6月に「日本国憲法とコロナ」の学習を実施し、当地域での誹謗中傷による人権侵害が全国報道に取りあげられた事情も鑑み差別を容認しない、人権意識を高めるための取り組みを行うことができた。			○	終息の見えない世界的パンデミックに対して全職員があらゆる機会を捉えて差別やいじめなどを許さない気運を醸成していく必要がある。係・学年・教科・部活動顧問で連携し、気になることは日常的に話題にし、いじめの予防・早期発見に努める。いじめは決して許されないという姿勢を常に生徒に示し、予防的人権学習をおこない、啓発・啓蒙につとめる。
			人権平和教育を教科と教科外の各領域において関連をもたせ、実施することができたか。	人権平和の観点から、地域の過去の歴史に学び、平和を考える一助とするために、満蒙開拓平和記念館の館長寺澤秀文氏による生徒対象の講演会を実施した。多くの生徒から歴史を受け止めた真摯な感想が寄せられた。			○	次年度以降も教科と教科外の各領域において人権や平和を考える機会を設け、生徒の意識啓発に努めていきたい。今年度学んだ満蒙開拓の史実など身近な地域の歴史から学ぶテーマも必要と考える。
開かれた学校づくりと地域		⑤ 保護者との連携	保護者との意思疎通を図り、協力関係、信頼関係を築くことができたか。	コロナのため計画通り活動を行うことはできなかったが、多くの保護者の方から「学校のために何かしたい」という声をいただきとてもありがたかった。			○	多くの保護者の方が参加をしたいと思うような魅力的な活動計画を提案していきたい。各ご家庭の環境に配慮し、PTA活動が負担にならないよう、実施時期や行事の内容について検討していきたい。
			PTA諸会合・行事・学年学級PTA等のPTA諸活動を充実させることができたか。	PTA諸会合・行事・学年学級PTA等のPTA諸活動はコロナ問題のため計画通り進めることができなかった。環境整備作業は74名の保護者が参加してくださり充実した活動となった。			○	一斉メールやホームページなどにより、各行事の様子や楽しさが伝わるよう配信するとともに、家庭通知が必ず届くよう保護者のネットワークを駆使するなどして、各行事への参加者をさらに増やし、PTA活動を盛り上げていきたい。
			保護者との連携を、生徒指導に生かすことができたか。	引き続きPTA活動の充実を生徒指導の礎にしていける必要がある。			○	「開かれた学校作り」「保護者・教職員一丸となって生徒を育てる」視点を常に持ち続ける必要がある。これからも保護者に積極的に学校へ足を運んでいただき、生徒の状況を共有しながら生徒の成長を支えていきたい。
		⑤ 地域との連携	「町づくり協力隊」のさらなる活性化、授業や生徒会活動・クラブ活動等での社会人講師の活用、地域の要請に応える講師の派遣などを通して、学校が地域に信頼される存在となり得たか。	例年の「～花といふ笑顔を～東北へ～」の取り組みをはじめ、様々な活動が中止となり残念であったが、松川町を中心とした地域との協働につとめ、今まで行っていなかった小中学校との交流の機会を持つこともでき、有意義であった。今年度も、地域を代表する講師に來校いただき、授業や講演をおとして直接生徒に語りかけていただいた。			○	生徒会やクラブでの活動にとどまらず、生徒の自主的、自発的な活動をさらに促していきたい。また、その活動の受け皿となる地元地自体や企業との連携も深めていきたい。今後の学校の目指す方向として、地域連携推進の窓口を明確にし、協働のための組織を地域と共に立ち上げられると良いと考える。また、地域の要請に応える学校の人的資産の派遣などについても研究を進めていきたい。
⑤ 学校情報の積極的な発信	中学校に対して本校の教育方針や取り組みについて積極的にアピールすることができたか。	地区の中学3年生全員に進路情報（フルーツバスケット）を配布し、積極的に情報の発信をした。ホームページでのアピールについて検討していく必要がある。			○	中学校の生徒・保護者・職員に対して積極的に情報を発信する。		
	学校ホームページのコンテンツの充実と情報公開を図ることができたか。	感染症対策における最新の情報をホームページで更新することができた。今後もホームページ更新操作ができる人員の確保・校内体制を検討する必要がある。メール配信サービスにおいては連絡などを適切に配信することができた。			○	ホームページに最新の情報を公開できるように努める。学校生活の様子など、すぐに情報を集められるようなシステムを作っていく必要がある。		
	生徒・保護者・住民の学校参加	学校評議員会の充実を図り、生徒・保護者・住民との交流が深められたか。	コロナ禍の為、生徒・保護者・地域の方々との交流を深める機会が少なくなってしまったことは残念であった。学校評議員会では前もって資料を送付し有意義な意見交換ができた。また、保護者・生徒対象の「匿名性を担保した学校評価」アンケート等をスマートフォンを使い実施した。スムーズに貴重な意見・要望をいただくことができた。			○	学校評議員・保護者の方々、生徒からの意見・要望等を職員で更に共有し、学校改善に反映できるように、各分掌担当とさらに綿密な連絡をとっていく。また、地域との交流に関しては適切に地域にPRを続けたい。	